

IV 水循環パートナーシッププロジェクト

水質の浄化や水量の確保など水循環の持つ機能や、水辺の整備・保全など水循環再生につながるテーマで、尾張地域のニーズと特性にあった先導的な事業を協働・連携して尾張地域水循環再生地域協議会を中心に実施していきます。

1 身近な水辺再生と川の健康診断 in 矢田川(別票1)

瀬戸市の海上の森に源を発する矢田川は、尾張旭市内を流れ、名古屋市西区で庄内川に流れ込む一級河川で、河川整備が進んでおり、河川敷では多くの人たちが散歩やサイクリングなどで水辺の景観を楽しむなど、都市のオアシスとなっています。

そこで、矢田川において、流域の人たちと協力してさらに矢田川の河川環境を向上させるとともに、川の健康診断を行って、水に親しむ人の輪を広げます。

2 尾張水循環再生プロジェクト・大山川ルネッサンス07(別票2)

身近な川である大山川を取り巻く様々な環境(自然、歴史、文化・くらし等)を知ることにより、健全な水の循環システムを再認識し、私たち一人ひとりのライフスタイルを見直すなど、水環境に配慮した暮らし方を考えるきっかけを作ります。

開始年度	平成19年度
テーマ	身近な水辺再生と川の健康診断 in 矢田川
分類	水質の浄化 水量の確保 生態系の維持 水辺の保全
実施主体	特定非営利活動法人 土岐川・庄内川サポートセンター
キーワード	水辺再生、水質調査、水生生物調査、川の健康診断
<p>1 取組の目的、背景及び必要性</p> <p>矢田川の流域は、護岸整備が進み典型的な都市域河川の様相を示しており、このような河川の健康状態はどうか調べるためには、その状況を水質だけでなく、生き物の生息状況や親水性などについて総合的に調べる必要がある。</p> <p>このため、「あいちの水循環再生指標」を活用し、矢田川の上流から下流域で河川環境改善に取り組んでいる団体が協力して、川の健康診断を実施する。</p> <p>2 取組内容</p> <p><流域で連携した啓発イベントの実施></p> <p>矢田川の健康状態はどうか調べるためには、その状況を水質だけでなく、生き物の生息状況や親水性などについて総合的に調べる必要があることから、「あいちの水循環再生指標」を活用してモニタリングを行う。</p> <p>また、尾張旭市から名古屋市にかけての水辺の一部では、水辺の生物が生息しにくく、親水性が損なわれている区域も見られるため、流域の人達で、生物が棲みやすい水辺や、親水性のある風景について考えるための意見交換会を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時 期：11月下旬 ・場 所：矢田川流域 ・参加団体：矢田川流域で活動する団体・構成員（約100名） ・作業内容：川の健康診断と意見交換会をあわせて実施する。 <p>（意見交換会の主な議題・・・①矢田川の良い点、改善点、②めざす姿、③地域住民の活動、④官民の協働・連携など）</p> <p>3 期待される効果</p> <p>矢田川の河川環境を改善するため、多くの団体が、様々な形で河川清掃や観察会等を行っているが、このような取組を上流域から下流域まで流域が連携して実施することにより、その効果が大きくなり、また取組の輪も広がる。</p> <p>4 役割分担</p> <p>民間団体が主体的に実施するイベント運営に、国・県が協力する。</p> <p>5 今後の検討課題</p> <p>継続して事業を実施していくためのシステム作り。</p>	

開始年度	平成19年度
テーマ	尾張水循環再生プロジェクト・大山川ルネッサンス 07
分類	水質の浄化 水量の確保 生態系の維持 水辺の保全
実施主体	大山川を愛する市民の会
キーワード	湧水、田園、ビオトープ、まちづくり
<p>1 取組の目的、背景及び必要性</p> <p>愛知県の「水循環再生基本構想」を具体化する意識の高まりの中から、先駆的モデル事業として、かつて田んぼを流れて、今は工業団地を通過するのみとなり、忘れられた「湧水」を田園ビオトープに導水活用することにより、地域住民、事業者、行政が三位一体となって親水、清水を学び、消えゆく生き物を蘇らせ、昔懐かしい田んぼの水生生物の保護育成を図り健全な水循環の再生をめざす。</p> <p>この手始めとして、日常生活に身近な一般的な河川の一つとして大山川を対象とし、大山川の水の現状把握や、大山川の源流から河口までの現状確認を行い、地域での水循環再生の輪を広げ、取組の方向性について検討する必要がある。</p> <p>2 取組内容</p> <p>(1) 湧水調査</p> <ul style="list-style-type: none"> 過去にまた現在も湧き出ている「湧水」の現状を把握する調査を、一般市民の参加を得て実施する。 <p>(2) 流域の現状確認調査(水の旅)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域住民の大山川の現状に対する理解を深めるため、大山川の源流より、名古屋港までの現状確認調査を実施する。 対象は広く一般市民にも呼びかけ、50名程度を想定する。 <p>3 期待される効果</p> <p>日常生活に身近な一般的な河川の一つとして大山川を対象とし、大山川の水の現状把握や、大山川の源流から名古屋港までの「水の旅」を体験することで、地域の水循環が、人の循環、暮らしの循環に展開していく道筋を考え、地域での健全な水循環再生の輪を広げる。</p> <p>4 役割分担</p> <p>民間団体が主体的に実施するイベント運営に、国・県・市等が協力する。</p> <p>5 今後の検討課題</p> <p>身近な湧水の活用など水循環再生に向けた具体的メニュー検討とそれらに向けた地域住民・行政等の連携強化について</p>	

V 行動計画推進のために

行動計画に位置づけられた水循環再生の取組を推進するため、県民や事業者、民間団体、行政からなる「尾張地域水循環再生地域協議会」では、各地域における取組の推進を図るとともに、各主体間相互の取組の連携・調整や取組情報の整理・提供を行います。また、必要に応じ県域を越えた取組の検討や他県との調整を行います。

尾張地域水循環再生地域協議会の構成

区分	所属	役職等
座長	名古屋工業大学	准教授 秀島栄三
事業者・県民・民間団体	愛知西農業協同組合	組合長
	あいち知多農業協同組合	組合長
	豊浜漁業協同組合	組合長
	木曽川漁業協同組合	組合長
	名古屋商工会議所	専務理事
	常滑商工会議所	専務理事
	愛知用水土地改良区	理事長
	矢田・庄内川をきれいにする会	会長
	大山川を愛する市民の会	世話人代表
	市町村	名古屋市
一宮市		市長
瀬戸市		市長
春日井市		市長
津島市		市長
犬山市		市長
常滑市		市長
江南市		市長
小牧市		市長
稲沢市		市長
東海市		市長
知多市		市長
尾張旭市		市長
岩倉市		市長
日進市		市長
愛西市		市長
清須市		市長
北名古屋市		市長
弥富市		市長
長久手町		町長
豊山町		町長
春日町		町長
大口町		町長
扶桑町		町長
七宝町		町長
美和町		町長
甚目寺町		町長
大治町		町長
蟹江町		町長
飛島村		村長
国	中部地方環境事務所	環境対策課長
	中部地方整備局庄内川河川事務所	所長
	中部地方整備局名古屋港湾事務所	所長
	水資源機構中部支社	管理部長
県等	尾張事務所	所長
	海部事務所	所長
	知多事務所	所長
	尾張農林水産事務所	所長
	海部農林水産事務所	所長
	知多農林水産事務所	所長
	尾張建設事務所	所長
	一宮建設事務所	所長
	海部建設事務所	所長
	知多建設事務所	所長
	河川工事事務所	所長
	農林水産部	部長
	建設部	部長
	環境部	部長
名古屋港管理組合	企画調整室長	

※名古屋市は、「なごや水の環(わ)復活プラン」所管局長が構成員。

平成 20 年 3 月現在

1 各主体に期待される役割

水循環再生基本構想を推進するためには、県民や事業者、民間団体、行政の各主体が、水循環再生に関する自らの役割と参加する意義を理解し、各主体の立場に応じた役割分担のもと、自主的・積極的に水循環の再生施策に取り組む必要があります。

このため、各主体が役割を次のように分担し、協働・連携して取組を進めます。

県民

環境の問題は、県民一人ひとりの行動や生活様式と深くかかわっています。

このため、普段の暮らしと河川や水路などの水質の汚濁などのかかわりを理解し、日常生活の中で、よごれを流さないことや水の使い方を工夫することなど、実行が可能な行動を実践します。

また、地域における水循環再生に関する意識の向上に努めるとともに、地域の活動に自主的・積極的に参加します。

事業者

事業者は、事業活動により用水の取水や排水を通して、地域の河川や水路などに様々な影響を与えており、水循環再生の取組にとって、重要な役割を担っています。

このため、事業者は、節水や水の再利用など効率的な水利用、排水の汚濁負荷の改善などによる、水循環再生に向けた直接的な取組を実施するとともに、提供する製品やサービスによる間接的な水循環再生への取組についても配慮することが必要です。

さらに、地域社会の一員として、県民、民間団体や行政との連携した取組が必要です。

民間団体

県民や事業者により組織され、非営利的かつ自主的に活動している民間団体は、社会や地域における環境保全活動の実践者としてその専門性を生かし、県民、事業者、行政との連携・協働に配慮しつつ、水循環再生の取組に参画していきます。

また、今後団塊の世代とされる多くの人々が定年を迎えることから、新たな実践者を育成する役割が期待されます。

行政

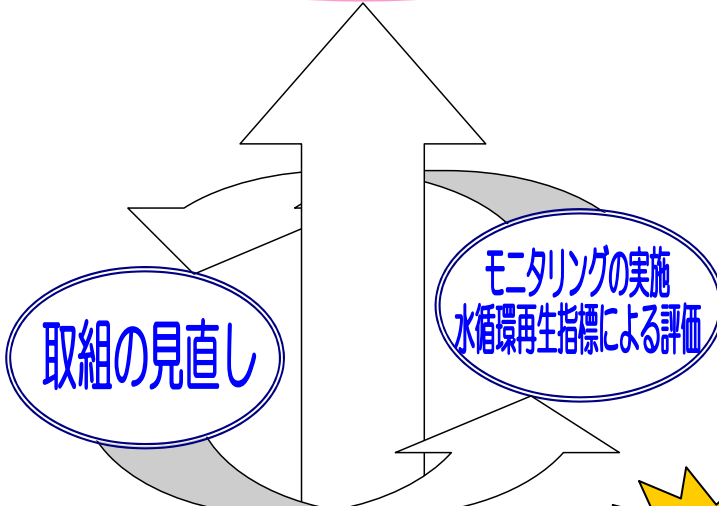
行政は、水循環再生に向けた総合的な施策を策定し、実施します。

また、地域の水情報の積極的な提供や情報の共有化、環境学習による県民の啓発を図ります。

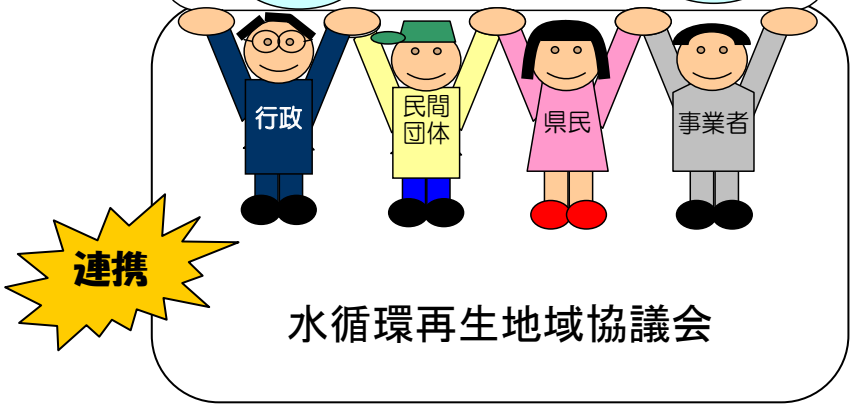
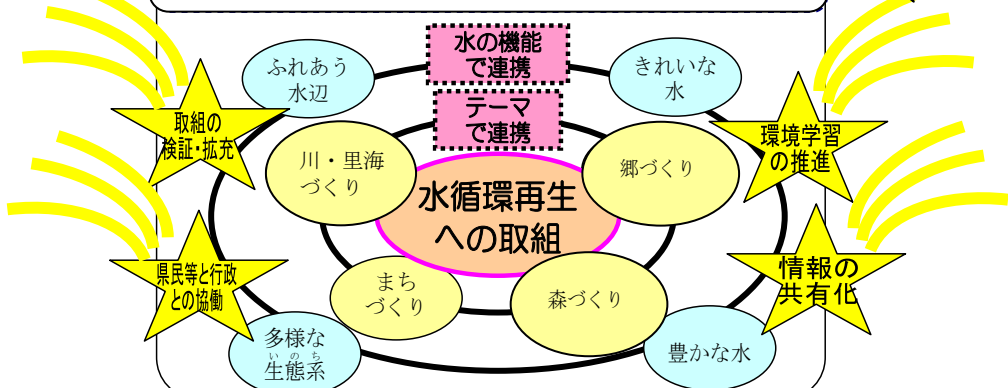
さらに、地域における県民や事業者、民間団体、行政等の連携が非常に重要であることから、これらの主体が密接に連携できるような場の提供や主体間の調整的な役割を担います。

水循環の再生

人と水との豊かな
かかわりの回復・創造



水循環再生地域行動計画 **協働**



2 行動計画の推進に向けて

(1) 取組の進行管理

行動計画で定めた取組を、県民、民間団体、事業者が連携して主体的に取り組むために、尾張地域水循環再生地域協議会に行動計画フォローアップチーム（仮称）を設置し、計画（Plan）、実行（Do）、点検（Check）、見直し（Action）のPDCAサイクルを繰り返すことにより、行動計画の効果的進行管理と計画の見直しを進めます。

(2) 取組実施状況の点検、計画の見直し

行動計画は、今後の研究成果などにより新たな知見が得られたりするなど、方向性の修正が見込まれることから、概ね3年ごとに達成状況や課題を整理しながら、中間評価や見直しを行います。

取組実施状況の点検は、次のように毎年行います。

尾張地域の共通目標や流域ごとに掲げている流域別目標については、行動計画フォローアップチーム（仮称）が行動計画に掲げた取組の中から進捗状況の指標として適切な項目を選定し、取組の実施状況を点検・把握します。

また、取組による水環境の状況変化把握などのため、県民・事業者・民間団体・行政が協力して、川などの総合的な健康状態を水循環の視点で判断するため作成した「あいちの水循環再生指標*」を活用し、モニタリング調査や流域内で調査日を定めて行う「流域一斉調査」を経年的に実施します。これらの調査を通じて水循環再生への理解を深めるとともに、取組への参加意欲も高めていきます。

なお、点検結果は、行動計画フォローアップチーム（仮称）が窓口となって取りまとめを行います。

【水循環再生指標の調査項目】

評価項目	調査項目
水質	水の汚れ（COD）、水の色、濁り、におい、泡・油膜、水底の感触
水量	水深、流れの変化、流速、湧水
生態系	水質階級（水生生物調査）、魚の調査、 植生調査（水際、水辺周辺）、鳥や昆虫の調査、外来種調査
水辺	透視度、ごみの状況、水辺を利用したいか（親しみ）、 水辺への近づきやすさ、水辺の自然度、水辺景観（心地よさ） 水辺の活動（①散歩、レジャー ②環境学習 ③環境保全活動）

*あいちの水循環再生指標：「水質」のほか、「水量」や「生態系」、「水辺の親しみやすさ」などの項目で構成し、川や海などの健康状態を水循環の視点で総合的に判断するための指標

(3) 情報の共有と発信

地域協議会で新たに合意された取組(アクション・シート、パートナーシッププロジェクト)は毎年行動計画に追加していきます。

目標達成状況の点検結果及び汚濁機構解明などの最新研究成果報告等は、ホームページなどから発信し、情報の共有化を図り行動計画の効果的な推進に努めます。

